

口腔感染症学実習 (浜田信城)

Training of Oral Infectious Diseases (Nobushiro Hamada)

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 微生物感染学
- ③ 口腔感染症
- ④ 歯周病
- ⑤ う蝕

授業概要

微生物学実験に不可欠な無菌操作技術とともに基本的な染色法の習得と滅菌・消毒法の概念を理解する。細菌の菌種鑑別と細菌の鑑別に用いられる生化学的性状の主な試験方法について修得する。また、口腔環境を理解し、口腔バイオフィルムの成り立ちと口腔微生物の生態系の概要を理解する。さらに、細菌培養についての実験的演習を行うとともに、薬剤力価測定の基本についても実験的演習を行う。加えて、今後必要となる実験手技についても実習を通じて修得する。

授業科目の学修目標

微生物学実験に不可欠な無菌操作技術とともに基本的な染色法の習得と滅菌・消毒法の概念を理解する。細菌の菌種鑑別と細菌の鑑別に用いられる生化学的性状の主な試験方法について修得する。また、口腔環境を理解し、口腔バイオフィルムの成り立ちと口腔微生物の生態系の概要を理解する。

授業計画

- ① 口腔感染症学的研究計画立案実習 12コマ
実習を通じて、問題発見能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
- ② 微生物学基礎実習 24コマ
微生物学的研究に必要な解析手法を蛋白および遺伝子のレベルで教授する。
- ③ 滅菌および消毒実習 12コマ
細菌をサンプルとして殺菌効果の基本的な手技を教授する。
- ④ 実験動物学実習 12コマ
動物の選択法および取り扱い手技を教授する。

実習担当教員 浜田信城 渡邊清子 稲葉啓太郎 倉橋絢子

教科書および参考書

口腔微生物学 —感染と免疫— 第3版(学建書院) 小川和彦 他編著
戸田新細菌学 (南山堂) 吉田眞一、柳 雄介、吉開泰信 編
Oral Microbiology and Immunology (American Society for Microbiology): Lamont et al.

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、実験プロトコルを指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 微生物学の意義を理解し口腔感染症学的研究を説明できる。
- ② 微生物学的研究に必要な解析手法を理解し応用することができる。
- ③ 微生物学の研究論を理解し殺菌効果の基本的な手技を実践することができる。
- ④ 細菌学研究領域における倫理規範を理解し応用することができる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	実技	その他
20%	0%	40%	0%	0%	0%	40%	0%

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った講義の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の項目について課題を提出する。10%×4回=40%
- ・実技は、授業計画の項目について達成度を判定する。10%×4回=40%

理想的な達成レベルの目安

口腔感染症学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。